

PM2.5による大気汚染、感染症から市民を守るには

武藤 政義 議員

質問 環境基準を超えるPM2.5汚染、インフルエンザ、ノロウイルス等の感染症にどう対処するのか。

市長 中国からの飛来で心配されるPM2.5については、東京都が装置を取り付け、その測定値が4月から公表される。感染症対策としては、マスク着用や手洗いやうがいでの予防のほか、食品取扱時、おう吐物処理時の注意などをホームページ、



▲商工会館屋上でPM2.5を測定

一般質問 (要旨)

市政のここが聞きたい

今定例会では、18人の議員が市政全般にわたり一般質問を行いました。質問方式は3種類の選択制で、一括方式、一問一答方式、併用方式(一括と一問一答の併用)のいずれかを議員が選択し、質問しました。

概略の掲載は一問とし4ページから5ページに掲載しました。一般質問の項目は6ページにすべて掲載しております。

詳しくは、5月中旬発行予定の会議録を市役所情報コーナー及び図書館でご覧いただくか、福生市ホームページからご覧ください。

高次脳機能障害児童・生徒の教育にどう取り組むか

五十嵐 みさ 議員

質問 小・中学校の高次脳機能障害児童・生徒の現状をどう把握し、今後教育にどう取り組んでいくのか。

教育長 現在、在籍者はいないが、中途障害であり外見から認知しにくいと、社会的コミュニケーション等で様々な困難があることは承知している。社会参加の基礎を培うため特別支援学校や特別支援学級でのきめ細かな配慮を要する教育が必要

であり、今後研究を進めていきたい。



新学校給食センターについて

申田 金八 議員

質問 新学校給食センターは、災害時対応施設の1つとして考えているのか。

市長 災害時対応施設の整備を進めたいと考えており、災害時は対応拠点施設とし、平常時は小学校給食の共同調理場として、活用を図りたい。今後、細部を詰め、最短で平成25年度に基本設計に着手し、28年度供用開始の計画で進めていきたい。



▲現在の第一給食センター

乳幼児期からの教育支援プロジェクトに関する取り組みは

乙津 豊彦 議員

質問 乳幼児期からの子どもの発達を地域における社会的つながりを通して支える、このプロジェクトに関する市の取り組みを伺いたい。

教育長 保健センターの窓口はこのプロジェクトで作成された小冊子を置いて市民への普及を図っている。今後、家庭の教育力向上への支援を教育、福祉、医療等関係部署が一体的に総合的な体制として進めるこ

とができないか調査していきたい。



▲東京都教育委員会で発行している子育て支援の小冊子

新学校給食センターは中学校給食に向け「親子方式」で

青海 俊伯 議員

質問 新学校給食センターには、将来の中学校給食を視野に入れた機能拡充を検討してはどうか。

教育長 中学校昼食対策事業は、ランチルームの整備により完結しているため、中学校給食は考えていない。まず、新学校給食センターは、衛生管理の徹底、食物アレルギー対応や災害時の炊き出し、食育教育など、安全・安心な最新の施設整備実

現を目指したい。



▲第一給食センター調理場の様子

拜島駅北口の整備の状況と今後の方向性について

岩崎 百合子 議員

質問 拜島駅北口はまだ整備不十分な感が否めない。アクセス道路は車両のすれ違いも困難である。北口の整備の方向性や手法について、市はどのように考えているのか。

市長 部分的に歩行者の安全を確保する取り組みは行っており、地域全体の整備はこれから取り組む。平成25年度以降、地元の意向や意見を伺いながら、まちづくりの方向性

や整備手法を検討していく。



▲車両のすれ違いがむずかしい拜島駅北口

再生可能エネルギー転換に対し市の担う役割は何か

柳川 英司 議員

質問 分権・分散型自然エネルギーシステムへの転換に行政としてどうかかわっていくのか。

市長 福生市環境基本計画、新エネルギービジョンに基づく諸施策に取り組む。公共施設への太陽光・太陽熱中心の再生可能エネルギーの利用拡大を図るとともに、公用車の転換やカーシェアリングなど温室効果ガスの直接削減にも取り組んでいく。



▲サイクルシェアリング「こぐまる」

自転車の交通事故を防止するためのハード面の対策は

清水 義朋 議員

質問 自転車は環境負荷も少なく、カーブミラーの設置を行っている。東日本大震災以降、利用者も増えているが、道路や標識、路面標示などハード面の安全対策を伺いたい。

市長 道路標示による自転車専用通行レーンの設置や、路面標示のシールやガードレールの垂れ幕表示による自転車通行帯の明示のほか、自転車の飛び出しを防止する自転車専用ストップマークの路面標示や、



▲スタントマンによる事故の再現が行われた交通安全教室(第三中学校)

社会環境の変化に対する学校給食の対応を問う

田村 正秋 議員

質問 中学校給食を求める声も多いが、今後どう検討していくのか。小学校給食でのアレルギー対策は、

教育長 中学校昼食対策として、現在のランチルーム方式を継続していきたい。食物アレルギー対策では、アレルギー疾患用指導表を保護者に提出してもらい、牛乳の提供の中止や、事前に使用食材が明記された献立表から保護者が飲食を判断する

